

刊夕日七月一十

常警每日新聞

定額一冊金貳拾五圓
廣告料五號十二字語一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社

或る夜

千葉生

コンクリートの破片がギシ／＼と寝て居る僕の身體全面にのしかゝつて来る。ギユンと引いた臉が痙攣して兩眉の間に重い神経が小蟻のやうに集つて来る。

あゝ、今夜も眠れぬのか……

幾晩となく苦しく無形の害虫である。拂ひ退げやうとしても、拂ひ退げやうとしても尙敷を増す小蟻。何故僕を夢のある眠りの國へ入れて呉れぬのだ。不幸に泣き荒んで居る僕を何所まで苦しめやうと言ふのだ。

亡びる迄——ゾォツとした僕は綿の千切れた布團を神経の消えた手で押して、薬を頼る弱さを悲しみながら小蟻を追ひ出さうとする。

ノート

トンボの眼玉は複眼といつて小さな眼が無数に集つたもの多いのになると一萬六千からある

る。さうだ、やつぱり催眠劑だ。書籍の隅の黒い塚が眞暗な記憶の中にレントゲンのやうに浮いて来ると飢えた猫のするやうにかじり寄る僕！そして塚が一瞬にして血をしぼられた僕の

骸が暗谷の底に陥没してしまつた。催眠劑は昨夜その最後の一粒を呑んでしまつたのだ。

絶望

その骸の上に勝利の悦に燃えたやうに踊り狂ふ小蟻僕は敗けたのか。不幸はすべての敗北だが貧乏も全て

【朝】味噌汁——かぶ

小付 富貴豆

【晝】かぶの葉 油揚

煮びたし

【晚】むきみ天ぶら

大根おろし

どたこ二杯酢

の敗者なのか僕の身の敗北——死はやがて小蟻達の敗北である事を知りながらも小心な僕には拂ひ落せぬ生の末練があるのだ。

ふと散つた小蟻達の影に汗の冷たい安堵を見出す。雪原に只一人裸で残されたやうな寂しさ。その寂しさの中の苦悶から離れた安堵も氣弱な僕の前では鹽酸の涙に變つてしまつた。そしておぼつてしまつた。そして小蟻達は又も僕の手と臉の間を自由にかけ廻るのだ。波型に神経をむしり輪を作つて肉をグイ／＼踏み潰す鈍い色彩でありながら反抗のない僕のの前ではあくまで大きく強いのだ。

そして向もむじたらしい小蟻のレビユウが始められる。

死んだ友の顔——百圓札——校長の頰髪——社長の目玉——解雇辭令——ビールの泡——彼女の遺書——亡父——大砲——雨——サイベル——これ等が少しの切目もなく連つて小蟻達は止めさうもない。古い記憶のレビユウは最早や僕の息の根を止めんとして居る。その苦は怒りに變つた。身を縮め切つて悔蔑と苦悶の濁流に耐えて居た僕は今何かの支柱がはずれさうだ。そして小蟻達のレビユウの終幕は？

あゝ——臉——ばいの文字！

タイゲーム

飯村 閑舟

喰るサイレン木霊に響く

空は秋晴れ、心は朗ら

いつも元氣な

わがナイフ

飾る榮ある、ユニフォーム

着けたが最後

男の意地だ

がっちり組んで

お勝ちなさい

×

男の握る健棒に

鋭い速球が跳ね返りや

たとへ愛するグローブも

阻止する垣も打ち越えて

とかく邪魔する誘惑に

猛打、浴びせて

とられませんか
守備攻勢の策勵に
鏑を削り、それ肉迫だ
かてど加へて亦一点
ホームインには時ならぬ

の嵐だ、拍手の雨だ
されど惜しきや
惜しまれて
沈む夕日に
タイゲーム

御中食(ランチ)に
サロン獨特の御飯物
ベニエライス(天井)
御一人前……35 SEN
御酒の御肴に
サロンベニエ(天ぶら)
御一人前……30 SEN
サロングリエ(鬼カラ焼)
御一人前……30 SEN
天井です、御負の程を御試食いたします
おいしい御肴、是非御試食いたします
迅速にいたします
——平田町——
イワキ サロン
—デンワ 352—

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町一六(電話七一〇番)

御扱開始

旭屋一六銀行

通三丁目 四二五

タクシーは尼子へ!

車体優美——御用命は親切
迅速をモットーに!

電六四〇番

洗練されたサービスは完全に皆様の御用を果します

挨拶

不肖在平中は氷らくの間公私共に多大の御芳情を辱ふし奉深謝候扱て今般家事の都合上左記に轉居暫く静養する事に致し候間將來共倍舊の御厚誼と御指導相願度尙御出京の際には是非御立寄被下度乍略儀以紙上御暇乞御挨拶まで如斯に御座候
追つて出發の儀は十一月九日午前九時半發列にて出發の豫定に有之餘日なき爲め拜趨不仕候間不惡御了承願上候
昭和九年十一月六日
東京市淀橋區下落合一丁目五二
三(目白驛左側際)
賀澤 忠治
電話大塚三四四三番

玉屋洋品店
平町田町通電話二五五番

●店員募集
年齢十五、六才、希望者は至急来店あれ

外科専門

科線光X

上田外科醫院

平町南町
電話一九二番

平驛時間

改正發表さる

上下急行共に頗る都合よく

既報來月一日より實施される列車の時刻改正は大演習其他の關係から發表延期されたが平驛各列車の發着時間には左の如く決定した尙郵便車は來月下旬發表される筈である

△常磐線下り	着時	發時	終驛
(午前)	〇、四九	〇、五五	上野
	二、一五	二、二〇	々々急
	五、一五	五、二〇	上野
	六、二〇	六、二〇	湯本
	六、五六	七、〇二	上野急行
	七、二六	七、三二	上野
	八、五四	九、〇〇	同
	二、〇三	二、〇三	湯本
	二、一〇	二、一〇	同
	三、一一	三、二〇	同
	五、〇五	五、一〇	同
	六、二二	六、三〇	同
	八、五四	九、〇〇	水戸
	一〇、三〇	一〇、三〇	湯本
△常磐線下り	着時	發時	終驛
(午前)	二、四四	二、五〇	準急仙臺
	四、二九	四、三五	青森
	五、五三	六、〇〇	仙臺
	七、〇八	七、一五	平
	七、三一	七、三〇	平

〇、四五	郡山	七、三六	小川
二、五〇	同	八、三〇	同
六、二二	同	一一、一〇	同
九、二五	同	(午後)	
一〇、二一	小川	二、一五	同
△磐越線下り	發時	四、四九	同
(午前)	終驛	七、四一	同
六、一五	郡山	九、三五	小川

凶作地を

逃げ出す

一圓懐中の少年

警炭が凶作地から坑夫募集 狩集めてゐるなほ同所には昨今山形、新潟方面の三分作といふ凶作地から求職者が毎日四、五名宛訪れて来るが此れ等は大抵附近炭礦に採炭夫として就職させてゐる今日も盛岡の凶作地から僅か一圓を懐中にして逃げ出して来たといふ十六七才の少年が出頭『何んでもいゝから働きたい』と泣きながら嘆願して

高麗橋を中心として

眞木翁の懐古事談

八幡神社の境内に 辨天の祠や地藏尊 我日本の中世には、僧侶に幾多の傑物が輩出して、本地垂迹の説などが、勢力を占め、神も佛も歸する處は同じ者だとなつて、神佛

所員の涙をそゝつてゐる斯々激増するものと見られてふした悲惨な状態は今後益々

一年間の切手代

二萬五千圓

平局管内の賣上

平郵便局の窓口から去月中に賣つた切手の賣上代は二千三百五十九圓八十五錢で昨年同期より百三十二圓八十一錢を増し管内無集配局の賣上は四千三十一圓三十二錢、同じく集配局の賣上は一萬七千四百八十一圓六十錢で無集配局は前年同期より九百七十七圓七十六錢集配局は千四百二十三圓二十錢何れも増加して居りまた印紙代も昨年比し平局は四百六十九圓七十五錢、無集配局七百九十三圓六十五錢、集配局八百五十八圓八十五錢各々増加した

蕪安の影響から

蒟蒻栽培に轉向

高値を持續

郡南特産の蒟蒻粉は今年雨天続きのため例年より出荷が遅れてゐるが昨今漸く出廻り初めた相場は一駄四十五貫百六十圓程度で前年に比すれば一駄約二十圓の高値を持續してゐる植田驛に於ける昨年の發送高は七百駄であつた處今年蕪安の影響から栽培家が激増したため一駄發送を目標として準備を進めてゐるなほ今蕪安の北辨天祠の東の空地には明治の初年に、仲教院といふ建物が出来たものだが反動的時代の産物として神官の講習でもした處が、此建物も、何時の間にかなくなつた、此邊より八幡社後へ掛けての森は昔よりは薄くなつて、風がなぐとも常に寒い様な感じがする、森の外は長久寺の寺跡(今の避病院の處)の子供時代既に寺も何もなかつた。

區別整理

競技會を

平局が催す

平郵便局にては毎日数多い郵便物が一通毎に係員の手によつて區分けに處理されるが同局では區分けに當日係員二十名に一層の技術の向上を計る爲め來月上旬係員の區分整理競技會を催すと

驛前側溝

世界館まで

年内に完成

廣場舗装の前提、平驛前廣場舗装の前提たる驛前側溝工事は既に東鐵局の工事により完成を見たが平土木監督所では之に連接する側溝工事を企畫中の處受益者側酒井清氏よりの五十圓の寄附をうけて、いよいよ明八日より着工することになつた工費百圓延長五十米(住吉屋支店前より世界館方面まで)年内に完成

警女臨時考査

警女第二學期臨時考査は來年十二月、十三の三日間全學年一齋に行れる

假番號が人騒がせ 架空の自動車窃盗事件 濡れ衣の男三人大憤慨

▽... 捕り物ナンセンス

警察当局の飛んだ感違ひから架空の自動車窃盗事件に手を焼いた平署近來のナンセンスがある——平署では六日午後四時頃茨城縣警察部から『東京市内で窃取した三四年型新フォード箱型自動車』

犯人自身 運轉して平町地方へ向つた」との急報に接し直ちに非常警戒を行ひ午後六時頃容疑者として湯本地内國道を疾走中の新型フォード操縦者秋田市下新川木澤慶造(三)同長男康壽(三)の兩名を引致更に午後九時頃

四倉驛前 四倉合同運送店前に停車中の自動車運轉手双葉郡木戸村字前原高原義一氏方關本叶(三)を捕へ嚴重取調べを開始した結果、關本は主人から右自動車の修繕を頼まれ東京市千住區川原町森自動車

修繕工場 で修繕したのを六日朝修繕料百七圓支拂つて木戸村へ歸る途中午後一時頃茨城縣警察署で舉動不審で取調べをうけそのまゝ釋放されたが警察署ではこの自動車の「戸塚五八四」の仮ナンバーに就き

警視廳へ 照會したところ『そんなナンサーを出した覚えはない』との回答に接した警察署では狼狽して縣警察部へ手配したものであるが更に戸塚署へ照會した結果、立派にこの仮ナンバーを出してゐることが判り、結局警視廳と

戸塚署の 間の事務の手違ひから前記の三名が自動車窃取犯人といふ飛んだ濡れ衣を着せられたわけで三人はブン／＼憤慨しながら歸宅したが平署では事の真相が分つて骨折り損のくたびれもうけとばかり開いた口がふさがらなかつたとは近頃念入なナンセンスでおつた

東京に憧れ 十七乙女が 劇薬自殺を圖る

淺墓さから一圖に死を選む

平町新川町一四大工職秀壽四女林ケイ子(三)は六日夕刻自宅で昇永錠二錠を嚥下自殺を圖り苦悶中を家人が発見若松病院で加療中であるが生命覺束ない、同人は昨年八月以來上京實姉の宅に同居中の處最近家事の都合で歸郷したが東京へ行きたいと口癖に洩らしてゐたとの事であるから東京に憧るゝ餘り意にまかせぬを悲觀し乙女心の一筋に死を選んだものらしい

平町國防婦人分會では國防運動の場合に於ける正服の制定に就て研究中であつたが此の程金布製白地エプロンに白襟と制定今後會員一同この制服を着用して大活動をする事になつた

白エプロン姿で 國防運動に活躍

國防婦人會の制服決定

無免許の注射
按摩さん罰金
大浦村大字大森字野町八
鍼術灸術片寄秀太郎(三)

婦人病に

無免許の注射
按摩さん罰金
大浦村大字大森字野町八
鍼術灸術片寄秀太郎(三)

明日のラジオ

八日

今晩の部

- 後六、〇〇 (子供の時間) 久留島武彦 童話
- 後六、二五 基礎英語講座 (二十三) 岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演「精神作興に就て」 文部大臣 松田 源治

報豫氣天

今晩も明日も北東の風小雨模様

明日の部

- 後八、〇〇 連續講談終席「青砥政談」一龍齋貞山
- 後八、三〇 東海道演藝道中(第十三夜) 解説 西村 樂天
- 後九、三〇 時報 ニメー ス 氣象通報 番組豫告

青訓夜學

十二日から 第一校にて

平青年訓練所は來る十二日から第一小學校に於て夜學を開始するが講師は左の如くである

(修身) 篠山校長(公民) 菅波(國史、國語) 大和田(數學) 井上(商業、珠算) 齊藤(地理) 鈴木康各訓導

白井翁追善謠曲

廿三日谷口樓に催す

平觀世會は來る二十三日の新嘗祭を卜し同會の創始者故白井博之翁の追善を兼ね午前八時より古川、野口の兩氏を招き素謠會を催すが番組は左の如く番外として鳥越一、古川順之助、野口友彌諸氏の角田川及融等がある由

竹生島(平觀世會) 賴政(好謠會) 井筒(松韻會) 百萬(千鳥會) 弱法師(平觀世會) 蟬丸(萩原謠曲會) 杜若(竹生會) 富士太鼓(川前觀世會) 大佛供養(平瀨觀世會) 安達ヶ原(田村觀世會) 紅葉狩(磐炭觀世會) 船遊慶(友謠會)

平商記録

引續き競技

既報平商校内競技大會は昨日午前十時より引續き同校々庭に於て開催されたが各種目に於ける最高記録左の如くである

△百米一二秒五五年佐々

フラく稲など 顧みず工事へ!

救濟工事のトップ 永戸村の砂利取り

石城郡下の冷害地救濟事業は既報の如く平土木監督所に於て總工費二萬二千圓を以て七ヶ村に分割施工することになつたがこの中平、三坂線縣道改修事業の永戸村合戸地内に於ける砂利採取作業は去る三日郡下のトップを切つて開始、現在二百名近く出役してゐるがこの工事に力を得た地元民は收穫皆無に等しい田を捨て争ふて出役する熱心さで現在同地方は荒廢せる田の面に瘠せた稻ほを實らせたまゝ工事の掛聲が響いてゐるといふ例年にならぬ異風景を見せてゐる

地方職業紹介事務局長 本田 徹郎

- 後六、〇〇 (子供の時間) JOR唱歌隊
- 後六、二五 英語講座(四の四) 舟橋 雄
- 後七、三〇 講 演 ラングミヤ
- 後八、〇〇 (京城より) 朝鮮音楽 吳大石外大勢
- 後八、三〇 通俗名曲の時間(第五回) 管絃樂團
- 後九、〇〇 落語「長屋チム」 三遊亭金馬

木武 同四年菅野正△二百米二六秒八四年菅野正△四百米五九秒六三年蒲田力之助△八百米二分二八秒六 四年阿久津薫△千五百米五分一五秒四年齋藤一夫△八百米繼走一分四八秒九五年チム(木田 森 佐々木 鈴木) △走高跳一米五五五年鈴木莊六△走巾跳五米一二四年宇佐美重一△三段跳一米五〇五年鈴木莊六△砲丸投一〇米三二三年蒲田力之助△バドミントン米一六二年鈴木福壽

新市面頭

（編輯上段及上欄）

田邊南龍（作）
山本英春（書）

…一七七…

權兵衛喜三郎の仲裁

「是が立派のお勤め中に刀ア持つて暴れたとか何とかいふなら夫りやア仕方ねえが、所謂花見の場所、酒の上の仕事だ、本氣の沙汰ぢやアねえ、あの二人の侍が、誰に恨みがあつてしたといふでもねえから向後いたしませんと地下に手を突いて詫まつて居る、宜い加減に勘辨してやつたつて宜からうと俺ア思うだが何んなもんだらう」

「然うサ、侍が小鬘をそがれて了やア屋敷へオメー歸ることもなるめえ、あの二人の威張つて居る奴等アナイツと分らな過ぎるかと思ふ」

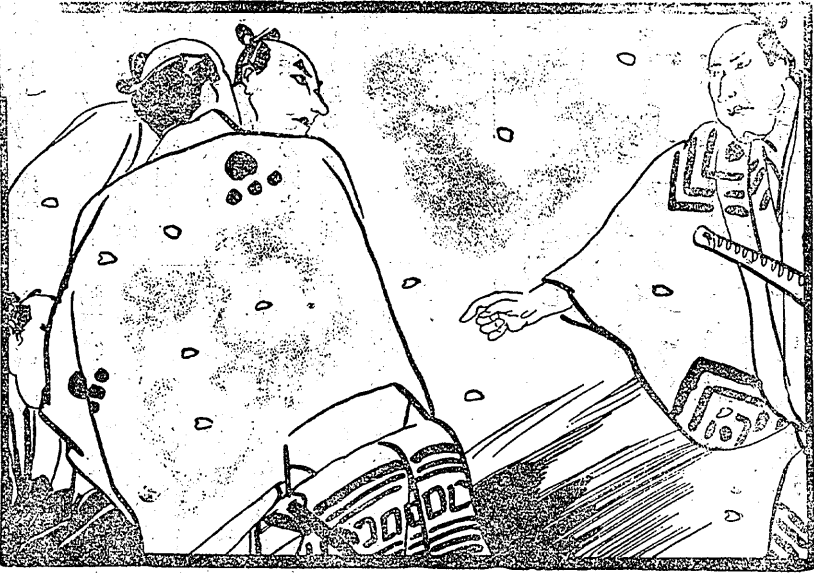
「何うだらう、一ツ口を利いて二人を一番助けてやらうぢやアねえか」

「喜三郎お前はあの男を知らねえか」

「知らねえな、兄貴知つてるか」

「あの三人の侍は白柄組のバリ／＼で水野十郎左工衛門に兼松又四郎、近藤登之助といふ者だ二人の供は水野と近藤の家來で金時、兵衛に渡邊綱右衛門といふ

奴
「フムー金時だか一杯一杯だかア知らねえが相手が侍だけに口の利きばいがある斯ういふことを見ては我慢の出来ねえ喜三郎、マア兄イ方少し夫にお待ちなすつて……」



「汝エ一人でも心許ねえ相手が二人だから俺が一緒に行かう、三人は暫時待つて居て呉れ」

「お話しをしやすから……さて旦那方、貴郎方二人此方達を捕へて今小鬘をそがうといふ、斯うやつてお兩人があやまつてお出でなされるものを、貴が小鬘をそぐてえなア餘りと云へばお

と唐犬權兵衛に喜三郎、まだ此頃は腕といふ名はございませぬ、田町の喜三郎と人に云はれて居りました者、是から追々に腕といふ紳名が付くのでございませぬ、二人は夫へ出て参りまして

情ねえことだ、此二人のお武家が傲慢に募つてお出でなさりやアそりやアお切んなさうと殺さうと小鬘共も見て居て好い心持の位えのなんだが、涙に暮れて謝つてお出でなされる、助けて上げてお呉んなさいまし、私共兩人が斯うやつて此お方に成代つて大地へ手を突いてお詫をいたします、此お方二人も主人持若氣の至りで大勢の中で巫山戯たが元はと云へば酒の爲め濫りに面白からと云つて刀ア振廻して歩いちやア、宜い譯のものぢやアございませぬが何うぞ勘辨をしてやつて下さいまし、私共は淺草花川戸に住まつて居ります幡隨院長兵衛の子分で權兵衛といふ者、又是れに居りますは喜三郎といふもんでござえやす、御無理ぢやアありませうが何うか旦那兩人をお助け遊ばして下さるやうにお願ひ申し上げます」

と膝の下に手を垂れて謝つて居ります。

市土子おさき

魚問屋

店理代平命生本日本大最優最
榮盛賀志
(三一二電)目丁四平

流行歌
國境の町
母を尋ねて
草津くずし
故國よさらば
東京かつぱれ
曠野に祈る
★各社レコード

高橋時計店
平橋路小

看護婦急派
の求めに應
じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

かまぼこ製
お惣菜用
さつま揚
吉原揚

不孫寛

平町一丁目
電話一四一番

一、齒科一般 保存科補綴科 繼續架
工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科
一、口腔外科 一、レントゲン科

中野齒科醫院

平町田町(松月堂向ヒ)
電話五〇九番

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠

貸切の御用命

ぜひ：三井自動車部へ!!!
電話六八五番

◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行

内科 小兒科 花柳病科

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番